

山武農林振興センター 普及だより

山武の



ホームページ <http://www.pref.chiba.jp/apcenter/sanbu/>

山武農林振興センター

山武農業改良普及事業協議会

〒283-0006 東金市東新宿 1-11

☎ 0475-54-0226 F A X 52-7914

農業にチャレンジする 皆さんを応援しています!



水稲の収量調査を行う受講生

山武農林振興センターでは、地域農業の担い手となる農業者の育成確保のため、多様な職業経験、知識を持ち新たに農業に参画しようとする人を対象に農業チャレンジセミナーを開講しています。定年後の就農準備を目指す方や親から受け継いだ農地を利用し農産物の生産販売を目指す方など、参加者の受講理由は様々です。今年度のセミナーには昨年度の16名に加え、新たに14名が加わっています。

これまでに計6回のセミナーを開催しており、ブロッコリー・葉牡丹の種まき実習や栽培管理方法の交換会、水稲の収穫物調査や梅の剪定実習、土壌診断の基本とその対策を学びました。また、山武郡市内の堆肥生産現場などの視察も行ってきました。

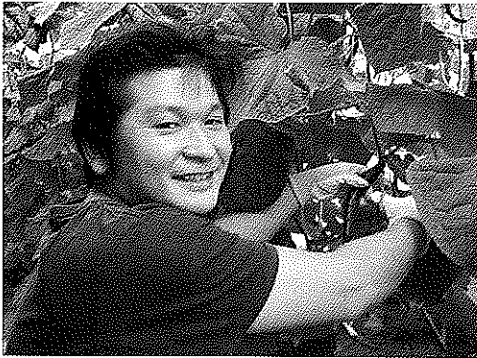


堆肥生産現場で話を聞く受講生



梅の剪定を生産者から教わりました

受講者の中には、親のハウスを借りトマトの生産販売に挑戦している方や、来春から畑の面積を増やしトウモロコシやブロッコリーの生産販売を目指すと意気込み高い方も生まれています。地域の生産者の皆様方の暖かいご支援をお願いいたします。



キュウリと一緒に『はい、チーズ!!』

産

地ががんばっています!

	より良いものを、				
	より多く届けたい!				
九十九里町		古川智久さん			

九十九里町片貝で施設野菜・ぶどうの栽培に取り組み古川智久さん(37歳)を紹介します。

智久さんは千葉県農業大学校を卒業後、卸売会社勤務を経て、平成7年4月、就農をしました。その後家族経営協定を締結し、平成21年11月に農業士に認証されました。

智久さんのモットーは、「できるだけ多くの人に自分で作った野菜や果物を食べてもらうために、より良い品質のものを、より多く生産すること」です。

智久さんのお宅では、7棟のハウス(約7,000㎡)で、トマト、キュウリ、ナス、小玉スイカ、メロン、ぶどうの6品目を両親やパートナーさんと一緒に切り盛りし生産しています。

野菜は農協へ出荷していますが、果物は自分の直売所で販売しています。平成21年から小玉スイカの栽培と販売を始めました。

今後は、「現在の経営状況を維持しながら、もっと多品目栽培にチャレンジして、直売所で売れる商品を増やしていきたい」と、こやかに語ってくれました。

マ

キを枯らす

害虫に注意!

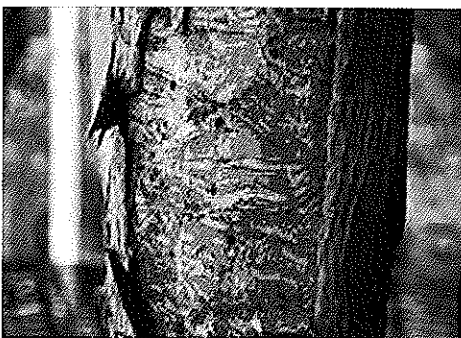
イヌマキを枯死させる害虫「ケブカトラカミキリ」の被害が拡大しています。

ケブカトラカミキリは体長1cmのカミキリムシです。4〜6月に成虫がマキに産卵し、孵化した幼虫が樹皮下を食害してマキを枯らします(写真参照)。

被害の拡大を防ぐためには、幼虫が生息しているマキを伐採し、焼却または破碎して成虫の羽化・脱出を阻止する必要があります。

自宅周辺でマキが枯れる症状に心当たりのある方は、農林振興センターまでお問い合わせください。

※焼却する際は、お住まいの地域のルールに従い、適切な処理をお願いします。



幼虫による樹皮下の食害痕



一般住宅の垣根での被害(被害樹が枯死)

山武市

ネギ現地検討会を開催



山武農林振興センターでは10月15日、山武地域のねぎ生産者を対象に「ねぎ現地検討会」を開催しました。主力品目である秋冬ねぎは、夏季の土壤病害や湿害による被害が大きいため、湿害に強い品種選定や定植方法などの対策が必要となっています。

本年は、生産者や関係機関など合わせて48名が出席し、JAちばみどりそうさ園芸部とJA山武郡市第三集出荷センター園芸部が設置した品種比較圃場を視察した後、栽培されている品種やその特性について情報交換を行いました。

各産地では、品種の変更で湿害を軽減していますが、一方で、品種ごとの施肥設計や新たな病害防除が必要になっています。

農林振興センターでは、今後も生産組織間の交流を促進し安定生産の確立に努めます。



検討会で意見交換



品種比較圃場を視察

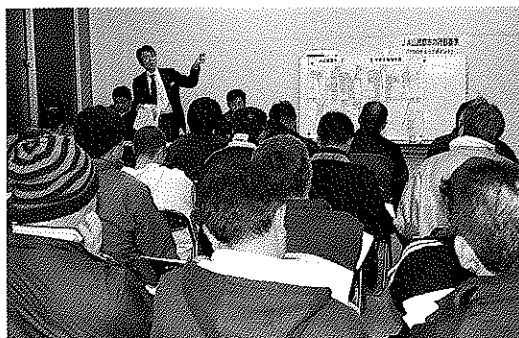
GAPの取り組みが

拡大しています

JA山武郡市では、GAP（農業生産工程管理手法）に取り組んでいます。平成19年に、海つ子ネギと増穂ネギでスタートし、20年には全域のネギと人参とキュウリに、今年はトマトで拡大しています。

GAPとは土作りから出荷までの各生産・出荷過程において生産者が守るべき管理基準を定め、これを実践することで安全な農産物の生産や環境保全、作業者の健康などを確保しようとする取り組みです。

JA山武郡市では、生産者自らが管理基準を定め、点検シートを作成し、薬剤散布記録簿と共に綴り、毎月記帳指導会にて確認しています。JA山武郡市では、他の品目と作型にも導入できるように拡大に取り組んでいます。



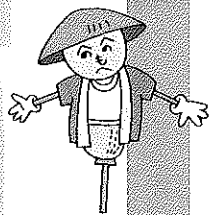
JA GAP 生産管理工程図作成研修

集出荷センター きゅうり部会 生産工程管理点検シート(越冬・春・夏・抑制)

分類	チェック項目
(1) 畑地管理	① 圃地診断 1 健康診断を定期的に実施していますか。
	② 圃地管理 2 作業前、作業後に手洗いや靴を消毒していますか。
(1) 種子	3 農薬剤と収獲用の手袋を交換していますか。
	① 品種・種子保証 4 貯蔵場所・品種が保証され、品質保証が確保されていますか。(種子保証書)
(2) 管理	5 育苗時や定植時が整備されていますか。(購入苗の場合も同様)
	① 育苗記録
(1) エフCV	6 堆肥施用、緑肥、土壌改良材等によりエフCVを実践していますか。
	① 施肥方法
(1) プラ	7 原料・購入先・施用量等を確認していますか。
	① 産地保証
(1) 土壌診断	8 プラスティックマルチは、適正に敷設していますか。
	① 適正施肥
(1) 農業従事者	9 土壌診断を実施し、施肥量を決定していますか。
	① 施肥基準
(1) 農業従事者	10 栽培基準が整備され、基準が守られていますか。
	① 自己診断シート記入していますか。
(1) 農業従事者	11 JAが指定した栽培記録簿に正確に記録していますか。
	② 年度履歴記録
(1) 農業従事者	12 農業従事者が設置され、施設されていますか。
	③ 農業従事者
(1) 農業従事者	13 農作物及び動物の飼育の規程を守っていますか。
	④ 衛生管理

作成した生産工程管理点検シート

新指導農業士・農業士の紹介



指導農業士
川面 弘美氏
かわつら ひろみ

山武市早船で、いちご栽培をしています。ジャム加工などに力を入れ起業家として自立し、がんばっています。また土作りにより食味良好ないちごを作っています。



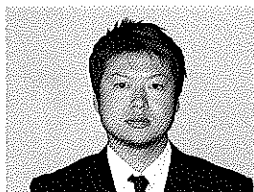
農業士
菅野 環氏
すがの たまき

東金市家徳で、ライスセンターを建設し地域の水田農業の担い手として期待されています。食味にこだわる栽培法を行っています。



農業士
古川 智久氏
ふるかわ ともひさ

九十九里町片貝で、雇用を入れた企業的施設野菜経営を実現して地域の模範となっています。



農業士
實川 勝之氏
じつかわ かつゆき

主な品目は、メロン、小玉スイカ、ナス、トマトです。食味重視の栽培をしています。

横芝光町坂田でナシ+露地栽培の経営を行っています。ナシ栽培では、仕立て方を工夫した新技術を積極的に導入しています。



農業士
行木 達哉氏
なみき たつや

横芝光町鳥喰上で酪農経営を行い、加工品のアイスクリームも生産販売しています。生産から加工・販売の一貫経営が特徴です。今後の酪農経営の若いリーダーとして期待されています。

ちばアグリネットワーク

(通称CAN) 設立

千葉県青年農業者が集まり、県全域を対象とした組織が出来ました。イベントも直売から、スポーツといろいろ企画中です。詳しくは、振興センターにお問い合わせ下さい。



栗源道の駅でのイベント開催

お知らせ

平成二十二年度 県農業大学校学生募集

- ▲募集人員 A日程農学科約三〇名。研究科約一〇名。
- B日程農学科約一〇名。研究科若干名
- ▲受験資格 農学科・高等学校既卒者又二十二年三月卒業見込み者。
- 研究科・都道府県の農業大学校農学科既卒者又は二十二年三月卒業見込み者。

- ▲選考期日 A日程・平成二十二年一月十二日。B日程・平成二十二年三月二日で行われます。詳細は千葉県農業大学校0475(52) 51211までお問い合わせください。